月の夜

樋口一葉

青空文庫

村雲すこし有るもよし、無きもよし、みがき立てたるやうの月のかげに尺八の音の聞えたる、上手ならばいとをかしかるべし、三味も同じこと、琴は西片町あたりの垣根ごしに聞たるが、いと良き月に弾く人のかげも見まほしく、物がたりめきて床しかりし、親しき友に別れたる頃の月いとなぐさめがたうも有るかな、千里のほかまでと思ひやるに添ひても行かれぬものなれば唯うらやましうて、これを仮に鏡となしたらば人のかげも映るべしやなど果敢なき事さへ思ひ出でらる。さゝやかなる庭の池水にゆられて見ゆるかげ物いふやうにて、手すりめきたる処に寄りて久しう見入るれば、はじめは浮きたるやうなりしも次第に底ふかく、此池の深さいくばくとも測られぬ心地に成て、月は其そこの底のいと深くに住むらん物のやうに思はれぬ、久しうありて仰ぎ見るに空なる月と水のかげと孰れを誠のかたちとも思はれず、物ぐるほしけれど箱庭に作りたる石一つ水の面にそと取落せば、さゞ波すこし分れて是れにぞ月のかげ漂ひぬ、斯くはかなき事して見せつれば甥なる子の小さきが真似て、姉さまのする事我れもすとて硯の石いつのほどに持て出でつらん、我れもお月さま砕くのなりとてはたと捨てつ、それは亡き兄の物なりしを身に伝へていと大事と思ひたりしに果敢なき事にて失ひつる罪得がましき事とおもふ、此池かへさせてなど言へども未ださながらにてなん、明ぬれば月は空に還りて名残もとゞめぬを、硯はいかさまに成ぬらん、夜な〳〵影や待とるらんと憐なり。嬉しきは月の夜の客人、つねは疎々しくなどある人の心安げに訪ひ寄たる、男にても嬉しきを、まして女の友にさる

人あらば如何ばかり嬉しからん、みづから出るに難からば文にてもおこせかし、歌よみがましきは憎きものなれどかゝる夜の一言には身にしみて思ふ友とも成ぬべし。大路ゆく辻占うりのこゑ、汽車の笛の遠くひゞきたるも、何とはなしに魂あくがるゝ心地す。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆58　月」作品社
　1987（昭和62）年8月25日第1刷発行
　1989（平成1）年1月25日2刷
底本の親本：「一葉全集　後篇」博文館
　1912（大正1）年6月
入力：葵
校正：もりみつじゅんじ
2000年11月6日公開
2005年6月28日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

月の夜

樋口一葉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/